

# リサイクル資源が 出荷されるまで

資源物がリサイクル工場に集められたあと、工場ではどのようなことが行われているのでしょうか。再生資源回収・卸業者マルシンで行われている作業の一部を紹介します。



## 保管

圧縮・梱包した資源物を保管。古紙・缶は屋内で、ペットボトルは屋外で保管する。

## 出荷

資源物を再商品化する製紙メーカー、プラスチック製容器包装メーカーなどへ出荷。メーカーにより資源物が新たな商品となり、市場を介して私たちの手元にやってくる。

使い道の乏しい資源も…



## 廃棄物固形燃料の製造

使い道の乏しい資源をエネルギーとして回収。資源は極力リサイクルさせる。



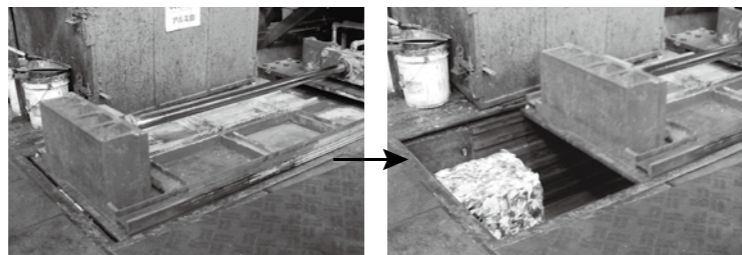
## 計量

トラックが載る電子はかり。資源物を積んだままトラックごと計量し、その後トラックの重さを差し引くことで、資源物の重さをはかる。40トンまで計量が可能。多いときは1日に50台のトラックがここで計量する。



## 異物除去・選別

(左) コンビニ等で捨てられたペットボトルのラベルを剥がしたり、中身を捨てたりして、リサイクルできる状態にする。  
(右) 磁石でアルミ缶をはじき飛ばし、アルミ缶とスチール缶を選別する機械。これにより、自動で缶の選別をすることができる。



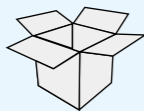
## 圧縮・梱包

古紙や缶を直方体に圧縮。約1500個の缶が一つの塊に圧縮されている。

## 集めた資源は何になるの？



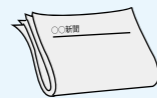
・段ボール → 段ボール箱など



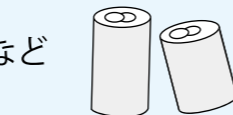
・ペットボトル → 制服・ペットボトルなど



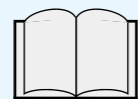
・新聞紙 → 新聞紙・週刊誌など



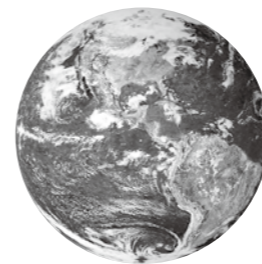
・アルミ缶 → アルミ缶など



・雑誌 → 絵本・段ボール箱など



・スチール缶 → スチール缶など



# エコで未来を明るく



私たちが日々使う資源には限りがあります。私たちがこのまま資源を消費し続けると、子どもたちが将来使える資源はどんどん減っていくことになります。

しかし、消費したモノでも、リサイクルできるモノがたくさんあります。また、家庭で園芸を楽しみながら自然を活用することで省エネルギーにつなげることができます。安芸高田市内でも、環境を守るために、地域で、企業で、個人で、取り組んでいる人たちがいます。

## 地域主体で取り組むエコ

## 資源物の集団回収

安芸高田市立郷野小学校では、PTAが中心となって地域内の全家庭をまわる資源物回収を年に2回行っています。その歴史は古く、昭和30年頃から、当時は廃品回収として始められたそうです。資源物回収で得た財源(市からの補助金)は、楽器の購入や修理などの小学校の金管バンドの運営に充て、教育活動に活用しています。古紙などリサイクルできるものをごみとして出せば、処理するための費用がかかる上、燃やした後の焼却灰の処理問題などが発生します。しかし、リサイクルすれば、処理のための環境への負荷が軽くなる上、活動して得られた資金を、子どもたちの教育活動に使うことができます。郷野小では古くから環境と子どもたちの教育環境を充実させる良い循環ができています。

環境と子どもたちの教育のために



1,2,3 郷野小グラウンドで行う資源物集団回収のはじめのあいさつ。担当地区別にチームに分かれ、地域をまわるルートを確認。当日は資源回収の大切さを訴えるため、たかたんも登場した。  
4,5,6 各家庭でまとめられた資源物を手際よく回収。1時間程度でトラックの中は資源物でいっぱい。  
7,8 トラックの荷台がいっぱいになると、郷野小の近くにある再生資源回収・卸業者マルシンの工場へ搬入。PTAの皆さんとマルシンの従業員で、協力してチラシ・段ボールを種類別に圧縮・梱包する機械へ入れる。

